

特集●がん対策・2

がん検診の現状と課題—有効性・受診率・がん対策基本法——東北大学公共政策大学院 坪野 吉孝
がん検診の新手法に関する展望

① 新しい診断機器のがん検診への応用とその将来性——国立がんセンター予防・検診研究センター 寺内 隆司

② バイオテクノロジーのがん検診への応用とその将来性——国立がんセンター研究所科学療法部 尾野 雅哉・他
がん対策と経済学

① 米国における保険者のがん検診サービスの枠組みに関する調査—経営的視点に焦点を当てて

横浜市立大学医学部社会予防医学教室 大重 賢治・他

② がん医療の経済学的評価

東北大学大学院医学系研究科 濃沼 信夫

発がんリスクの評価と今後の対策

① 微生物感染による発がんのリスクと対策——国立感染症研究所・病原体ゲノム解析研究センター 神田 忠仁・他

② 環境化学物質のばく露による発がんのリスクと対策——京都大学大学院工学研究科 内山 巖雄

がん患者の緩和ケア・QOL

① がん緩和医療の現状と将来展望——東海大学医学部 江口 研二

② がん緩和ケアに関する地域ネットワークモデルの構築——高知女子大学看護学部 鈴木志津枝

●視点

東京都の公衆衛生医師確保の現状と課題——東京都福祉保健局健康安全室 住友真佐美

●特別記事

[鼎談] 死にゆく人の地域在宅ケアを考える——林 謙治・岡部 健・蛭田みどり

あとがき

2007年の『公衆衛生』誌は、「がん対策」で幕開けです。幅広い対策を含み、新たな法制度のもとで大きな進展が期待される分野ですので、来月号を含めて2回にわたる特集となります。今回は、本年4月から施行の「がん対策基本法」の趣旨と関連施策、基本法で重視している患者の視点からの活動の一端、およびがんの1次予防に関する最新の情報などについて、国内の第一人者の方々から解説と提言をいただきました。地方行政で仕事をする者にとっては、今後の実務の参考になる論文ばかりです。

特集論文の中でも繰り返し紹介されていますが、かつての日本で最も多いがんは「胃がん」でした。しかし、この半世紀のうちに胃がんは大きく減少しました。胃がん死亡率の減少要因と各要因の貢献度について、大学の講義で医学・看護学生に毎年質問しておりますが、ほぼ例外な

く、①胃検診の普及による早期発見の効果、②手術等の治療技術の進歩、③食生活の変化(減塩など)の3つが回答され、貢献度は①>②>③と答える学生が多いのが実情です。実際は1次予防(→罹患率の減少)の貢献度が最も大きく、それを促進する環境面(冷蔵庫の普及等)の貢献も大きいことを伝えていますが、これを証明するには「地域がん登録」による罹患率の分析が不可欠です。がん登録に関する早期の法制化が望まれるところで

す。学生からは、「胃がん死亡率が減少したのは、胃がんが見つかる前に肺がんや大腸がん等で亡くなる人が増えたから」という面白い答えもありました。がん予防に関する啓発活動が自家撞着に陥らないように、今後の予防研究の進展を期待しております。(阿彦忠之)

公衆衛生(第71巻 第1号) 2007年1月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,415 円(本体 2,300 円+税 5%) (2007 年々ぎめ予約購読料 28,200 円 ※配送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

本誌編集室直通 TEL (03) 3817-5718 FAX (03) 3815-7802

販売部直通 TEL (03) 3817-5659・5660 FAX (03) 3815-7804

E-mail: koshu@igaku-shoin.co.jp 振替口座 00170-9-96693 番

印刷所: 三美印刷(株) TEL (03) 3803-3131

広告申込所: (株) 東広社 TEL (03) 3409-8803/デザイン: デザイン・プレス

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo

© 2007, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複製・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ **JCLIS** 《**日本著作出版権管理システム委託出版物**》

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に《**日本著作出版権管理システム** (03-3817-5670) の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

・ 公衆衛生 URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/koshu/>

編集顧問

多田 羅浩三 大阪大学名誉教授・放送大学教授

林 謙治 国立保健医療科学院

編集委員 (50 音順)

阿彦 忠之 山形県健康福祉部・衛生研究所

桜山 豊夫 東京都福祉保健局保健政策部

高島 敏雄 大阪大学・社会環境医学

西田 茂樹 福島県衛生研究所

編集室通信

あけましておめでとうございます。いつも本当にありがとうございます。今年も読者の皆さんの実践に役立つ、日々の仕事にやる気・元気が感じられるような、公衆衛生マインドあふれる誌面を目指したいと思います。さて、昨年富山での日本公衆衛生学会では「格差」がキーワードの1つでした。格差社会の問題を確かに感じたとともに、一部の人のだけではない、「全体」が幸福で健康になる方向こそが、「公衆衛生」の目指す方向と再認識できました。現状は、国民のセーフティネットが削られる逆風を感じますが、「本当に大切なこと」を見失わないで、日々「本当に大切な仕事」をしておられる方への地道な取材、企画を、大事に積み重ねたいです。今年も宜しくお願い申し上げます。(野中)

(担当/野中・天野)